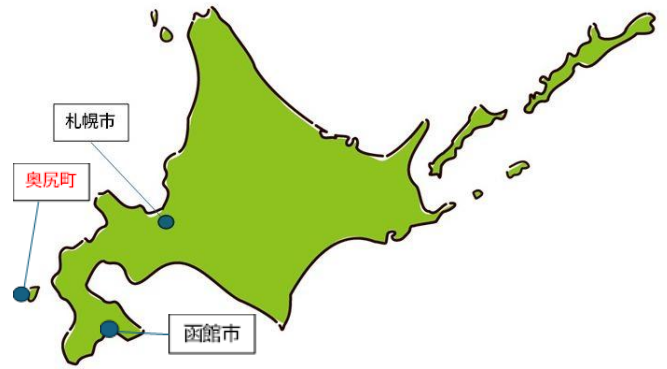


終わりに図書館ジャーニー vol. 11



奥尻町海洋研修センター図書室

道南地方日本海側に浮かぶ奥尻島には 2300 人が生活しています。北海道としては一番西側に位置します。訪問するには対岸の江差町からフェリーか、札幌丘珠空港か函館空港からの空路です。

日本海が荒れる冬場になると1週間近く船が来なくなるので、町民は事前に食料を備蓄しているようです。

30 年ぐらい前、函館から JR 江差線に乗って江差まで行き、船で渡った記憶があります。

今回は札幌丘珠空港から 50 分で奥尻空港に到着。プロペラ機で天気も良かったので、洞爺湖、室蘭の白鳥大橋、駒ヶ岳、函館山、そして遠く本州も見えるというたっぷり景色を満喫できる空路でした。気をつけないといけなのは丘珠からは毎日運行していないので、事前に必ず確認してくださいね。私は帰りに函館空港を経由して陸路で札幌へ帰りました。奥尻空港と中心街の往復バスが少ないので、乗合タクシーを使いました。なお、帰りに空港へ向かう際は事前予約しないと乗車できません。海岸沿いを走る乗合タクシーの対岸には道南地方の山々がよく見えます。ほどほどに道幅が細く、それが懐かしく、雰囲気が個人的に好きです。思わず「岬めぐりのバスは走る〜🎵」と『岬めぐり』を歌いたくなります。

奥尻町では稲作、酪農など農業、「奥尻ワイナリー」では奥尻ワインも作っており、海産物だけでなく、農産物も充実しています。奥尻産限定による料理大会なども実施しているとか。

乗合タクシーに乗車したのは私を入れて2名。市街地のフェリーターミナルまで 45 分。途中でリクエストすれば下車できます。奥尻町海洋研修センター図書室はフェリーターミナルから徒歩で 10 分ほど。ドライバーが「どこまで行くの？」と聞いたので行き先を伝え、フェリーターミナルを越えて目的地まで同じ料金で行ってくれました。ちなみに乗合タクシーは一律 1000 円。このようなちょっとしたサービスがありがたいです。

奥尻町海洋研修センター図書室には講演会などのホールもあり、町民にとってはとても大切なコミュニティスペースです。町には書店がないので、本に触れることができる唯一の施設です。

1993 年7月 12 日 22 時 17 分、北海道南西沖を震源とする大地震が発生しました。地震の規模を示すマグニチュードは 7.8。「平成 5 年北海道南西沖地震」です。島の南部青苗地区が壊滅的な被害を受けました。最大で高さ 29m の地点まで津波が遡上した痕跡が確認されています。

この大地震と津波により、道内では死者・行方不明者 229 名、うち奥尻町は 198 名。日本海側全てに大津波警報が発令されました。

30 年が経過し、図書室では当時を知る住民が高齢や移住で減ってきていることから、できる限り体験者にインタビューして記録を残しているそうです。アーカイブとしてどのように保存するかも検討しています。現在でも定期的に避難訓練を実施しています。

11 月は毎年図書室主催で「図書フェス」を実施しており、古本リサイクル市や読み聞かせだけでなく、最大の目的は町民のコミュニティーの場としていることです。子供同士、母親同士など地域によっては普段顔を合わせることがないので、このような機会にと考えています。

また、町はゼロカーボンを率先しています。ゼロカーボンとは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの多くを占める二酸化炭素(Co2)の排出量を実質ゼロにすることです。

奥尻島は、夏はマリンスポーツ、冬はスキー場もあるので、スポーツ好きには結構満足できそうですよ。不漁と言われるイカですが、これでもかというくらい美味しいイカ三昧な夕食でした。

2024 年 9 月訪問

加藤 重男